

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0790300016		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん (谷田川)		
所在地	〒963-1246 福島県郡山市田村町谷田川字表前58-1 (電話) 024-955-5628		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】 (20年1月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	11月	1日			
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人			
職員数	9人	常勤	9人,	非常勤	0人,	常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000	円	その他の経費(月額)	18,000	円	
敷金	有()	円	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	400	円	昼食	400	円
	夕食	400	円	おやつ		円
	または1日当たり			円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名	
要介護1	2名	要介護2			4名	
要介護3	3名	要介護4			0名	
要介護5	0名	要支援2			0名	
年齢	平均	77歳	最低	59歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺病院、草野歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年11月に開設された、国号49号線沿いにある木造2階建て1ユニットのグループホームであり、同法人が運営する小規模多機能型居宅介護が併設されている。近くには小学校、集会所があり、利用者と散歩がてら出かけることができる。
法人の基本理念である「家族との絆」を基本に管理者を中心に職員全員で家族とのコミュニケーションを大切に支援している。今後は運営を進会議の活用による地域との連携を図るとともに、家族とのより一層の連絡報告の実施をすることにより事業所の支援の状況の理解を深めていただきたい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員が評価の意義や目的を考えながら取り組んでおり、自己評価の結果による改善の必要性を踏まえ取り組もうとしている。事業所の運営や管理について運営者を含め改善検討される事を期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は、平成19年12月に第1回を開催したが、それ以降の開催が予定されておらず、概ね2ヶ月に1回の開催とはなっていない。事業所が開設して16ヶ月経っているが、まだ余裕がないものと思われる。地域との連携やサービスの質の向上の為に運営推進会議の有効的な活用をされるとともに、定期的な開催となるよう取り組んでほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族による面会時や、電話連絡時に利用者の日頃の様子を伝え、家族の意見等を聞き取るよう配慮している。家族等の意見は利用者の支援に反映させるように心がけている。新しい取り組みとして利用者ごとのアルバムの作成を実施中であり、日頃の生活状況を家族に伝えるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の敬老会や小学校の運動会に参加したり、隣の集会所で開催される踊りに参加するなど地域との交流に努めている。今後は、運営推進会議を活用して、事業所の情報を発信するなど、日常の生活から地域とのより一層の連携を図れるよう考慮中である。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念は「自由」「家族の絆」であるが、地域密着型サービスの意義・役割を反映した事業所独自の理念となっていない。	○	地域密着型サービスの意義を理解し、地域との交流や地域性を考慮した表現で理念を作りあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は法人としての理念を理解し、利用者とのかかわりを通じ地域密着型のサービスの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区町内会に加入し、地域の運動会や敬老会、集会所を利用した踊りの会などに参加し地域との交流に努めている。今後は運営推進会議等を活用し事業所からの情報発信を含め地域との交流、結び付きを図るよう努めてほしい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、管理者が取りまとめ自己評価とした。自己評価及び外部評価の意義を理解し日頃取り組もうとしている改善に役立ててほしい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年12月に第1回が開催され、以後は予定されていない。参加者に運営推進会議の意義や役割を十分な説明がなされないままになっている。	○	運営推進会議の意義（事業所の利用者に対するサービスの内容や、外部評価結果の公開等によりサービスの質の向上を図るため）を理解し、家族・行政・地域住民等に説明し必要性を理解していただき概ね2ヶ月に1回の定期的な開催となるように取り組んでほしい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の面会時や電話連絡時に健康状態や生活状況、職員の異動について報告している。日頃の生活状況を知らせるため、利用者ごとのアルバムの作成に取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の面会時や電話連絡時を利用し、意見や要望を聞き取りし、運営に反映している。定期的に家族等の意見・要望を聞くために運営推進会議等での機会を作るよう取り組んでほしい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在までに職員の交代は無い。異動時には引き継ぎ期間を長く取るなどの対応をしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、職員の資格取得に向けて支援を実施している。外部研修情報を回覧し自主的に職員を出席させている。職員全体のレベルアップのために外部研修参加者は、内部の会議で研修報告を行い職員全体のレベルアップに取り組んでいただきたい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人としてはグループホーム連絡協議会に参加している。地域の同業者との情報交換も実施されている。今後は、ネットワークを作り、より一層の相互研修や交流が促進される事を期待する。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、年長者である利用者の経験を教えてもらえるように工夫し、利用者の作成したわらじや絵を掲示するなどそれぞれの力を発揮できる機会を設け、共に支え合うように心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、家族等からの情報を得るとともに、利用者との毎日のかかわりの中での言葉や態度から希望や意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人から話を聞き、計画作成に関しては計画作成担当者が原案を作り担当職員らと相談して完成させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの介護計画に対してモニタリングを行っているが、達成された内容について介護計画の見直しに反映されていない。利用者や家族の状況変化に対応するため、現状に合った介護計画となるよう、利用者や家族の意向の確認とモニタリングの結果を反映した介護計画の作成をする事が必要と思われる。	○	利用者に何が問題であり、どんな支援が必要かを十分に検討し介護計画の作成することが大切である。計画終了時のモニタリングを行い、計画達成の状況の評価に応じた介護計画の見直しを行うとともに、利用者の介護計画を職員で理解し共有できるよう取り組んでほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が、事業所の協力医療機関の受診や往診により、適切な医療を受けられるように支援している。受診結果は、すぐに家族に伝えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師を中心とした終末期の対応についての研修は実施されているが、重度化した場合の対応指針や看取りに対する考え方を定めておらず、利用者・家族の同意も取っていない。	○	ホームの重度化した場合の対応指針や看取りに対する考え方を作成するとともに、利用者・家族への説明と同意を得る必要がある。重度化に対する意向を確認し、主治医を交えて終末期・看取りに対して話し合いを行い、関係者で意向を共有することが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシー保護の重要性を認識して、利用者への言葉かけや対応をしている。また、本社に個人情報取り扱いの誓約書を提出するなど個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者の体調に配慮した見守りを行ないながら、一人ひとりのペースに合わせた過ごし方ができるように支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が栄養のバランスを考慮した献立を立ており、利用者の好き嫌いや健康状態に配慮し食事の提供をしている。利用者と職員が分担し準備や片付けを実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望の時間に入浴できるよう、午前中からの入浴にも対応し支援している。また、利用者の羞恥心等にも配慮して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の趣味を活かした習字やわらじ作りを行ったり、洗濯物たたみ片付けなど利用者のできること・やりたい事を話し合い、利用者それぞれの希望に沿って支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の状況を判断しながら利用者の希望に応じてできる限り散歩や買い物などの外出の機会を設け実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態に不安があるため、行政と相談し玄関は施錠している。一人で外に出て行く利用者には付き添いながら対応してきたが、事業所が国道に面しているため利用者の安全を考慮し対応している。		鍵を掛ける事の弊害を理解し、精神的な不安を取り除くように声を掛けたり外出したい利用者には職員が付き添うなどなどの対応を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規定に基づく災害対策が確立されていない。また、災害時の食料や飲料水の備蓄もされていない。防災計画の立案と計画に基づいた防災訓練の実施と、運営推進会議を通じ地域との連携・協力体制の作ることが望ましい。	○	防災計画の消防署への提出と避難訓練の早急な実施が必要と思われる。また、災害時の食料品、飲料水等の備蓄をする事。地域の協力体制を取れるよう運営推進会議等を開催し働き掛けをする必要がある。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、利用者毎に食事と水分の摂取量を記録しているが、個人のファイルの中にあり利用者の状況が職員に伝わりにくいようである。記録の方法や設置場所の工夫をするとさらに良いと思われる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、天井からの採光により明るく広い快適な空間となっている。利用者は自由に好みの場所の椅子に座り休憩したり、会話を楽しんだり、一人で過ごしたりできるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、清潔で明るく利用者の使い慣れた身の回りの物を持ち込んでおり利用者が居心地良く過ごせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームもも太郎さん(谷田川)

記入担当者名 柳澤 富子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。